

秀峰通信『啐啄』

No 3 0 平成22年11月1日(月)

祝！ 県商業高校英語スピーチコンテストで、2人が「奨励賞」を受賞しました！

○27日(水)に県立図書館で行なわれた大会に、3年生4人(商業科2人、経営情報科2人)が出場しました。内訳は、スピーチ部門に中山・二木・岩切さんの3人、レシテーション(暗唱)部門に倉住さん1人でした。その内、中山・二木さんが奨励賞を受賞しました。4人とも素晴らしい発表でした。英語・ALTの先生方の指導のおかげでもあると思います。本校生の英語力が向上しつつあることを感じました。英語は、社会人としても、ますます必要になってくると思われます。高校生の中に、将来のために、基礎をしっかり身に付けさせておきたいものです。

 全国商業高等学校英語スピーチコンテスト県予選 宮崎県商業高等学校英語スピーチコンテスト	<スピーチ部門> ・中山 A Dream in the Sky ・二木 What do you think about our Aged Society? ・岩切 Cultural Mythology ※内容も素晴らしいでした。 <レシテーション部門> ・倉住 Celebrities Working	 全国商業高等学校英語スピーチコンテスト県予選 宮崎県商業高等学校英語スピーチコンテスト
身振り手振りで発表 倉住さん	全員笑顔で、記念撮影しました	

○スピーチ部門の最優秀は、昨年度に続いて、富島高校でした。「がんばれ みやざき」をテーマにしたもので、商業の授業と意見・体験発表大会、英語スピーチ大会が一貫したものでした。本校でも、本年度は、文化祭の「ポスター」を3年の商業技術の授業で、各人に作ってもらい、近隣に掲示したり、文化祭の「のぼり旗」を2年の文書デザインの授業で作製しています。今後は、同じ学科の中で、また、学科を越えて、一貫した取り組みや共同の取り組みを実施できればと考えています。※都城商業生が、企業とタイアップし、県産品を使ったおにぎりやシューを発売しました。

☆スピーチ部門奨励賞の中山さんが、本校の全商英検1級合格第1号となりました。

○全商英検1級の昨年度の合格者は、県下でわずか23名、合格率わずか5.4%のかなり難易度の高い検定です。今後、中山さんに続く生徒が多く出てほしいものです。

県教育委員会でも、「弁当の日」が実施されました。・・・渡辺教育長も初挑戦

○小中学校で広がっている「弁当の日」を教育長も推進されています。25日(月)、県教育委員会でも実施され、約200名の職員が、力作を持参し、中身を見せ合うなどして、自慢の弁当に舌鼓を打ったようです。ある職員は、黒豚ミンチと卵焼きの2色弁当を作ったそうです。材料費が掛り、味の方は今一だったようですが、日頃作ってくださっている奥様や生産者への感謝の気持ちと食べ物を大切にしないでということを改めて感じるいい機会になったという話でした。また、小林中学校では、26日(火)の文化祭の日に「弁当の日」を実施したそうです。生徒たち全員が一生懸命にお弁当を作ってきて、昼食時間は、いつも以上に楽しそうだったようです。来年度、農業科がやって来る本校でも、食材への感謝の気持ちを持つ意味で、今後、この取り組みを実施していきたいものです。

授業公開週間10月25日(月)～29日(金)が終わりました。

○頑張っている生徒たちと授業改善に取り組んでいる教職員の姿を見てもらおうと5日間実施した授業参観でした。一般の保護者、PTA役員、中学校の校長先生など、来校し参観されました。しかし、まだまだ多くの方々に来てもらいたいと思っています。そのためには、どうすればいいのか。何かいいアイデアはないのでしょうか？

(アイデア例)・この期間中に、進路相談等を常時受け付ける。

- ・生徒たちとの「ものづくり」授業に参加して、何かを作る。
- ・一般の方向けの特別講座を開催する。 など



1年生の保護者の方が参観

いよいよ、11月5日(金)・6日(土)は、第3回「鈴懸祭」です。



商業科3年渡邊さん作製

○先週から明日2日(火)まで、文化祭準備期間として、45分授業の後、毎日、50分間、クラスの合唱練習や展示などの準備を行ってきました。開催を4日後に控えて、放課後は、さらに準備に一生懸命取り組むことになると思います。3回目で、秀峰生だけの文化祭となり、文化の祭典が、これまで以上に充実したものになるよう、頑張りたいと思っています。PR用のポスターチラシを4日(木)の朝刊折り込みで、小林市内約9500の家庭に配布する予定です。



販売実習案内

☆体育大会同様、多くの保護者や地域の方々が、文化祭に来られるように、大いにPRしてください。



一生懸命に何やら製作中



二連覇を目指して玄関前で練習



男声合唱の魅力を聞かせて

☆先月、小林市市民体育館で開催された県高総文祭の書道展示部門で、

経営情報科1年の永田紗智絵さんが、「蘭亭序」(行書)の臨書で、見事！奨励賞を受賞しました。

10月が終わり、昨年度以上に厳しい就職戦線の第2段階に入っています。

○就職希望者の多くが、10月末現在で内定していますが、昨年以上に不合格になった生徒が、多いのも事実です。求人数も昨年よりも少ないために、2度目の挑戦はさらに難しいのではないかと考えられます。県内の高校は、どこも同じような状況で、内定獲得のために、いろいろ取り組んでいるようです。26日(火)の県立校長会の就職対策専門会で、話題になったことを紹介しておきます。

- ・A校では、就職希望者集会をこれまでに20回近く実施している。試験前や内定後の取り組みについて、今まで以上に力を入れている。就職希望者のリーダー的役割の生徒の育成も図っている。
 - ・B校では、就職、進学のための推薦をポイント制の基準をもとに行なっている。(一定のポイントを獲得した者でなければ、推薦されない。)出席、成績、生活面、資格、部活動等を全て点数化
- 公務員関係では一次試験を多くの生徒が通過し、二次試験が始まっています。すでに合格者も出ています。また、進学関係の試験も始まっています。面接、作文指導など、よろしくお願いします。

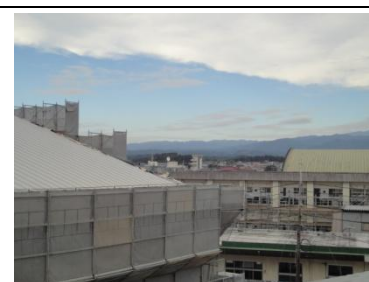
「父親は生きた教材」・・・23日(土)日南高校(川崎校長：前本校校長)で職業講座開催

○日南高校で父親の会「ひかり会」が発足し、その初活動となる職業講座が、1・2年生対象に開催されたというニュースが新聞で紹介されていました。父親ら現職、元職PTA会員、卒業生らが15講座を開設し、仕事内容を紹介し、働く意義や必要な資格、責任について話をしたということです。

(講師)公務員、看護、サービス、農林水産業の職業人
(形態)生徒は希望職種から1時間ずつ2つの話を聞く。

- ・川崎校長「父親は生きた教材。力を貸してほしいとかねてから願っていた。」・会長「PTA活動は母親が中心になりがち。活動の幅を広げ、父親同士や学校との連携を図りたい。」

本校同様、県内の学校で特色ある取り組みが行なわれています。



秋の雲の下の工事現場の様子

☆「〇〇の秋」も今月までです。充実した秋を過ごしてください。(今号より、『啐啄』がカラー版に)